



Press Release

KATAGAMI Style

京都国立近代美術館

2012年

7月 7日(土) - 8月19日(日)

<http://katagami.exhn.jp>


KATAGAMI Style展広報事務局

担当:三國谷、多田

大阪市中央区釣鐘町1-1-11 ミューズワンビル(アルカ内)

TEL:06-6947-5433 FAX:06-6947-5434

katagami@arca-web.com



はじめに

19世紀後半、万国博覧会などを通じて海を渡った日本の美術・工芸品は、欧米の人々に驚きの目をもって迎えられました。とりわけ芸術家たちにとって、その斬新な構図やデザイン、緻密な技は、作品を制作する上での大きなヒントとなったのです。ジャポニスムと呼ばれるこの現象は、絵画の分野では、印象派と浮世絵などとの関連が既に詳しく紹介されていますが、工芸については、その技法の多様さのため、これまでスポットをあてられる機会はほとんどありませんでした。

着物やその他染織品の文様染に使われる日本古来の伝統工芸・型紙は、この時期に欧米にもたらされ、その美しいデザインや高度な技術が高く評価されて、当時各地で盛んになった美術工芸改革運動に大きな影響を与えました。

本展は、19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米に渡った日本の美術工芸品の中でも特にこの型紙に注目し、それが欧米の芸術家たちの創作活動にどのような影響を与えたのかを紹介する日本で初めての試みです。日本で生まれた型紙が海を渡り、染色という本来の用途を超えて自由に解釈され、アール・ヌーヴォーをはじめとする美術・工芸改革運動の中で豊かな広がりを見せていった様相を、約450点の作品とともに俯瞰する展覧会です。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、貴重な作品を快くご出品くださいました博物館・美術館など関係諸機関、所蔵家の皆様に深く感謝の意を表しますとともに、ご協力いただきました全日本空輸、ご尽力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

2012年4月

京都国立近代美術館
日本経済新聞社

展覧会コミッショナーからのメッセージ

日本においてジャポニスムに関わる展覧会はいままで多数開かれてきました。総合的なものから、ウィーンやアメリカといった地域を限定したもの、版画や工芸などジャンルを限ったもの、ゴッホやガレなどの作家を特定したものなど、ここ30年ほどの間に高い関心を集めてきました。その結果日本では「ジャポニスム」という用語は定着し、幅広い知識が蓄積されてきました。しかし、今回の「染めの型紙」のように日本の伝統技術に特化して、それが西洋の美術や工芸デザインに影響を与えたことを示す展覧会は初めてのことで、日本ではまだ美術館などで見る機会の少ない型紙が、じつは西洋の多くの美術館・博物館に大量に所蔵され、かつてそれぞれの地域のデザイン活動に大きな刺激を与えたことは、ほとんど知られていません。

型紙は型染が盛んだ江戸時代から、優れた技術とデザインを誇りながらも「消耗品」として消費されてきたため、組織的体系的に収集保存がなされてきませんでした。そんなこともあって、染の業者が廃業する折に、まとめて海外に売られるなどして、流出したと考えられます。それらの流出時期はおもにデザインの改革期である1880年代から1890年代であり、アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーヴォー運動などで積極的に参照されました。

私どもコミッショナーは研究チームを立ち上げ、数年にわたって欧米各地で型紙そのものの調査を含め、それが美術、デザインへ与えた影響を検証してきました。その広がりには思ったよりもはるかに大きく、絵画、版画、ポスター、家具、陶磁器、ガラス製品、テキスタイル、室内装飾といったさまざまな分野に見ることができます。今後もこの展覧会をきっかけにさらに多くの事例を見いだせるのではないかと期待されます。どのような地域でどのような作例が生まれたのか、型紙の魅力を各地の人々がどうとらえたのか、現時点での研究成果をご覧になってください。

本展コミッショナー

馬淵 明子(日本女子大学教授)

高木 陽子(文化学園大学教授)

長崎 巖(共立女子大学教授)

池田 祐子(京都国立近代美術館 主任研究員)

開催概要

展覧会タイトル

(和文) KATAGAMI Style

(欧文) KATAGAMI Style - Paper Stencils and Japonisme

会場 京都国立近代美術館 (岡崎公園内)
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

会期 2012年7月7日(土) - 8月19日(日)
* 期間中、展示替を行います。
前期: 7月7日(土) ~ 7月29日(日)、後期: 7月31日(火) ~ 8月19日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし、7月16日と8月13日は開館)

開館時間 午前9時30分 ~ 午後5時、毎週金曜日と8月16日(木)は午後8時まで
* いずれも入館は閉館の30分前まで

主催 京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞社
協力 全日本空輸

観覧料 [当日]一般1,400円、大学生1,000円、高校生500円
[前売]一般1,200円、大学生800円、高校生300円
[団体]一般1,100円、大学生700円、高校生200円
* 前売券販売期間5月28日(月) ~ 7月6日(金)
* 中学生以下は無料。
* 本料金でコレクション・ギャラリーもご覧いただけます。
* 障がい者手帳をお持ちの方とその付添の方1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください)。
* 団体料金は20名以上で適用。

公式サイト <http://katagami.exhn.jp>

お問い合わせ 075-761-4111(代)

巡回情報

【東京展】

会場: 三菱一号館美術館 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-2

会期: 2012年4月6日(金) - 5月27日(日)

【三重展】

会場: 三重県立美術館 〒514-0007 三重県津市大谷町11番地

会期: 2012年8月28日(火) - 10月14日(日)



本展のみどころ

日本の伝統工芸・型紙のデザインが、19世紀後半から20世紀初頭にかけて欧米で活発化した美術・工芸改革運動に与えた影響を紹介する日本で初めての展覧会です。

世界が恋した日本のデザイン

日本の伝統工芸・型紙は、19世紀後半の万国博覧会などを契機に欧米にもたらされ、**KATAGAMI**として広く知られる存在となりました。型紙に彫られた花鳥風月などの自然をモチーフにした日本独自の文様とその表現は、当時の欧米社会に斬新なデザインとして受け入れられ、19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパを中心に活発化した**アール・ヌーヴォー**、**アーツ・アンド・クラフツ**、**ユーゲントシュティール**などの美術・工芸改革運動に大きな影響を与えました。

もうひとつのジャポニスム

19世紀後半に欧米にもたらされた日本の美術・工芸品は、日本趣味・日本心酔の潮流をつくり、**ジャポニスム**という運動が生まれました。浮世絵が、モネやゴッホなどの印象派・ポスト印象派の画家たちに強い影響を与えたことが有名ですが、型紙もまた、斬新なデザインのソースとして当時の芸術に影響を与えた、知られざる“もうひとつのジャポニスム”なのです。

Ukiyo-eと並び高く評価されたKATAGAMI

19世紀後半に日本から欧米に輸出された型紙は、現在でも世界各国の美術館・博物館に多数収蔵されています。このことは、**ジャポニスム**に与えた**KATAGAMI**の大きな影響力を物語っています。本展では、型紙と型紙由来の作品をあわせて展示し、数年に渡る世界各国での型紙調査が明らかにした研究成果を紹介します。

ガラス製品や陶磁器などの工芸品から、家具、絵画、ポスターが一堂に！

エミール・ガレ、**ルネ・ラリック**や**ルイス・コンフォート・ティファニー**そして**ウィーン工房**による工芸品、**リバティ商会**や**ウィリアム・モリス**のデザインによるテキスタイル、**アルフォンス・ミュシャ**のポスターなど、様々な分野の作品が一堂に。当時の人々の暮らしを彩った作品に見られる型紙の影響をたどります。

国内外約70ヶ所から、約450点の作品が出品

米・**メトロポリタン美術館**、英・**ヴィクトリア&アルバート博物館**、仏・**オルセー美術館**、ベルギー・**王立美術歴史博物館**、独・**ハンブルク工芸博物館**、奥・**オーストリア応用美術館**など、世界の著名な美術館・博物館から、型紙の影響を受けた作品が多数来日。国内からの出品も含めると**約70ヶ所**から、**約450点の作品**が出品されます。

型紙とは？

型紙とは、江戸小紋やゆかたなどの着物の生地に柄や文様を染める工程で用いられる道具で、型紙を用いた染色方法を型染と呼びます。その起源については諸説ありますが、和紙と防染糊を用いての染色法が確立したとされる、鎌倉時代から南北朝時代を始まりとして、桃山時代に完成したとする説が有力です。江戸時代以降、紀州藩の後ろ盾を得たことにより、現在の鈴鹿市白子・寺家地方を中心に発展し、同地の型紙商人の手により、全国の紺屋(染屋)へと運ばれていきました。

型紙は、美濃和紙を柿渋で加工した紙(型地紙)に、花鳥風月など日本古来の文様や、言葉遊びや機知に富んだモチーフなど、多彩な図柄を丹念に独特の彫刻刀で彫り抜くため、その制作には高度な技術が求められます。彫刻技法には、錐彫り(きりぼり)、突彫り(つきぼり)、縞彫り(しまぼり)、道具彫り(どうぐぼり)の4種類があり、染色工程においてより堅固な型にするため、糸入れ(いと入れ)という補強技法が考案されました。型紙に携わる職人は、文様を彫り抜く技を磨くことはもちろんですが、道具においても自ら作り上げてこそ一人前とされるため、生涯かけて一つの技法を究めていきます。

型紙は、江戸時代中頃から明治時代前期に隆盛を極め、それぞれの時代の流行を敏感に取り入れた日本独自のデザインが高度な技術を用いて彫り込まれています。まさに日本の服飾文化を彩った縁の下の力持ちのような工芸品です。この型紙が海を渡って西洋の人々を魅了し、**KATAGAMI**として愛され、様々な美術・工芸品の装飾に影響を与えました。



型紙 鉄線に菊唐草 1747年(延享4)年 東京藝術大学
* 半期展示



錐彫り作業風景 (伊勢型紙技術保存会提供)



型紙 鳥に霞 1792年(寛政4)年 鈴鹿市
* 半期展示





展覧会構成

「KATAGAMI Style」展では、まず第1章で日本での型紙と型紙染の歴史についてご紹介します。そして、第2章から第4章では、型紙の影響を受けた欧米の美術作品を、類似する文様の型紙とあわせて展示します。第5章では、現在も世界各地で様々な形で応用されている型紙デザインをご紹介します。

第1章 型紙の世界

- 日本における型紙の歴史とその展開

第2章 型紙とアーツ・アンド・クラフツ

- 英米圏における型紙受容の諸展開

第3章 型紙とアール・ヌーヴォー

- 仏語圏における型紙受容の諸展開

第4章 型紙とユーゲントシュティール

- 独語圏における型紙受容の諸展開

第5章 現代に受け継がれる“KATAGAMI”デザイン

作品借用予定美術館、博物館(一部)

【アメリカ】	メトロポリタン美術館、ヒューストン美術館
【イギリス】	ヴィクトリア&アルバート博物館
【フランス】	オルセー美術館、パリ市立プティ・パレ美術館、パリ装飾美術館
【ベルギー】	王立美術歴史博物館、アントワープデザイン美術館、イクセル美術館
【ドイツ】	ドレスデン工芸博物館、ハンブルク工芸博物館
【オーストリア】	オーストリア応用美術館
【日本】	東京藝術大学大学美術館、東京国立近代美術館工芸館、 豊田市美術館、黒壁美術館、サントリー美術館、 箱根ラリック美術館、飛騨高山美術館、 松江北堀美術館ほか多数

第1章 型紙の世界 - 日本における型紙の歴史とその展開

19世紀末から20世紀以降、西洋諸国の工芸デザインに大きな影響を与えることになる日本の型紙は、鎌倉から室町時代にかけて使用が始まったと考えられています。型紙を用いた染は、桃山時代から江戸時代にかけては武家男子の衣服に盛んに用いられましたが、江戸時代中期以降は町人男女の衣服にも取り入れられ、明治時代前期にかけて全盛期を迎えました。本章では、江戸時代から明治時代に制作された型紙染の着物とこれに用いられた型紙、型紙染の着物が描かれた浮世絵や、日本の型染と密接な関係にあると考えられる沖縄の伝統的染色技法・紅型(びんがた)の作品などを通じて、日本における型紙と型紙染の歴史をご紹介します。



浅葱麻地松皮菱葉模様素襦上下
江戸時代・19世紀
国立能楽堂
* 半期展示



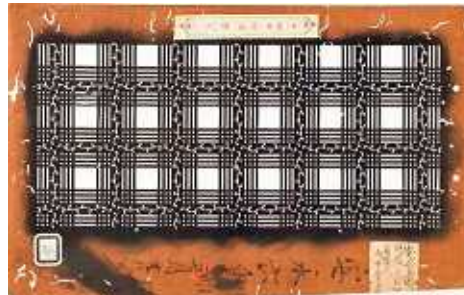
白地雁木形流水桜 紅葉模様紅型衣裳
琉球王府時代・19世紀
女子美術大学美術館
* 半期展示



紅型型紙 大模様白地型
松皮菱に鶴丸梅芭蕉文
琉球王府時代・19世紀
サントリー美術館
* 半期展示



型紙 紗綾 1749(寛延2)年 鈴鹿市 * 半期展示



型紙 格子に唐草 1777(安永6)年 鈴鹿市 * 半期展示



左から: 型紙 菊唐草 1856(安政3)年 東京藝術大学型紙、型紙 結繩 1767(明和4)年 東京藝術大学、型紙 光琳梅鶯 1734(享保19)年 鈴鹿市、型紙 角繫に寄せ文様 19世紀(江戸~明治時代) 個人蔵 * 全て部分図、半期展示



第2章 型紙とアーツ・アンド・クラフツ

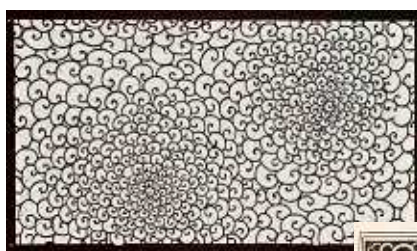
- 英米圏における型紙受容の諸展開

19世紀後半、万国博覧会などを通じて欧米にもたらされた型紙は、産業革命以降低迷していたイギリスの装飾芸術や産業芸術に新しいデザインの風を吹き込みました。工業デザイナーの先駆けとして知られるクリストファー・ドレッサーが、1876 - 77年に日本を視察して型紙染の技法を著作中で報告したことを契機に、80年代以降、リパティ百貨店では型紙が販売され、シルヴァー・スタジオをはじめとするイギリスの産業芸術に美的インスピレーションを与えました。スコットランドでは、チャールズ・レニー・マッキントッシュが型紙を平面装飾に応用しています。

一方、アメリカでは、1876年のフィラデルフィア万博から型紙への関心が高まり、ルイス・コンフォート・ティファニーなどにより、型紙の影響が顕著な作品が多数制作されました。



(上)リパティ商会
シラン・シルク見本帳 1900-05年頃
© Liberty Art Fabrics
(右)型紙 梅にvari芝翫縞
リパティ社
© Liberty Art Fabrics



(左)型紙 菊唐草 パリ装飾美術館
© Les Arts Décoratifs, Paris/Jean
(下)オーブリー・ヴィンセント・ピアズリー 挿絵 クライマックス (オスカー・ワイルド『サロメ』) 1920年(初版1894年) 文化学園大学図書館



ルイス・コンフォート・ティファニーおよび工房 ぶどう模様の箱 彫金とガラス 1905-20年頃
メトロポリタン美術館
© The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY



ルイス・コンフォート・ティファニーおよび工房
ランプ: 芥子 1900-10年頃
黒壁美術館

第3章 型紙とアール・ヌーヴォー

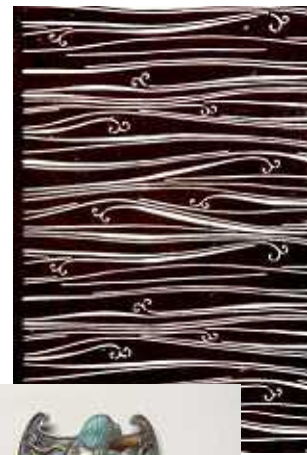
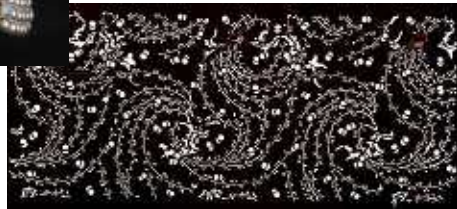
- 仏語圏における型紙受容の諸展開

19世紀末に印象派が絵画革命を起こし、その後アール・ヌーヴォーの花開くフランスでは、早くから日本の文物への関心が高く、ジャポニスムと呼ばれる造形運動が起こりました。絵画ではナビ派が日本の平面デザインを画中に応用し、工芸デザインではナンシー派が型紙のコレクションを活用した作品を制作しました。テキスタイルの産地であったミュルーズ、リヨンでも型紙が収蔵され、さかんに日本風文様がデザインされました。

アール・ヌーヴォーのもうひとつの揺籃の地となったベルギーの首都ブリュッセルでも、実際に型紙を所有していたアンリ・ヴァン・ド・ヴェルドや建築家ヴィクトール・オルタが、型紙を参考にして曲線デザインをつくりあげました。本章では、19世紀末から20世紀初頭の仏語圏を彩ったアール・ヌーヴォーの作品の中から、特に型紙の影響が見られる作品を紹介します。



(左)ルネ・ラリック チョーカー(くわがた
そう) 1899年頃 オルセー美術館
©Musée d'Orsay, Dist. RMN / Patrice Schmidt /
distributed by AMF
(下)型紙 柳に蹴鞠 パリ装飾美術館
© Les Arts Décoratifs, Paris/Jean Tholance



(上)ウジェーヌ・グラッセ、アンリ・ヴェ
ヴェール 櫛(ナイアード) 1900年頃
パリ市立プティ・パレ美術館
© Patrick Pierrain / Petit Palais / Roger-Viollet
(下)型紙 早蕨筋 パリ装飾美術館
© Les Arts Décoratifs, Paris/Jean Tholance

(下)エミール・ガレ 飾り
棚: 繖形花序 1896-98
年頃 松江北堀美術館
(右)型紙 蜘蛛の巣と桜
に竹垣 パリ装飾美術館
© Les Arts Décoratifs,
Paris/Jean Tholance



ドーム兄弟、ルイ・マジョ
レル ランプ(たんぼぼ)
1902年頃 北澤美術館



フィリップ・ウォルフエルス
《化粧箱》1916年
王立美術歴史博物館、ブリュッセル



第4章 型紙とユーゲントシュティール

- 独語圏における型紙受容の諸展開

1871年に漸く統一をみたドイツでは、19世紀半ば以降自国産業の発展促進のために、数多くの工芸博物館とそれに附属する学校が設立されました。当時なおハプスブルク帝国の威容を誇っていたオーストリアを含むドイツ語圏では、型紙の受容にこの工芸博物館・学校が大きな役割を果たしました。型紙は幅広い地域で収集され、各地の工芸改革運動やユーゲントシュティールと呼ばれる新しい芸術潮流と密接に連動し、時代に見合う新たな造形を模索していた人々の手本とされたのです。本章では、ドイツにおける型紙の受容とその展開に加え、ドイツ北西部ルール地方と経済的に密接な関係をもつオランダ、そしてウィーン工房を中心とするオーストリアでの型紙の影響を紹介します。



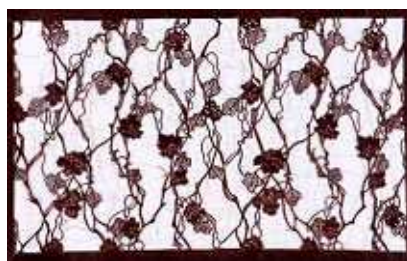
(上) 型紙 流水に鯉
ハンブルク工芸博物館
(右) ヘルマン・グラートル
壁付水盤 1899-1900年頃
ハンブルク工芸博物館



ペーター・パウルス 《接吻》
1898年 豊田市美術館



(左) アーデルベルト・ニーマイヤー 花器 1907-08年 ニンフェンブルク磁器製作所
(右) 型紙 瓢箪 ヴェルテンベルク州立博物館、シュトゥットガルト



(上) コロマン・モーザー パン籠 1910年 アーゼンバウム・コレクション © Asenbaum Photo Archive
(右) 型紙 格子に丸 ハンブルク工芸博物館



第5章 現代に受け継がれる“KATAGAMI”デザイン

19世紀末から約100年後のいま、欧米では日本の伝統文様が再び流行の兆しを見せています。その受容のしかたは一世紀前とは異なり、極東への憧れやエキゾティズムの域を超え、文様はもはや珍奇なものとしては捉えられていません。

カーペットを製造する英国のプリントズ・カーペットでは、近年、型紙の文様を採用したカーペットを製造、それは社を代表する商品となっています。またウィーンのバックハウゼン社では、型紙の文様に着想を得てコロマン・モーザーやヨーゼフ・ホフマンがデザインしたテキスタイルを現在でも販売しています。ここでは、世紀末芸術において見られたような極度にデフォルメされたデザインではなく、日本の文様がほぼそのままの形で再現されています。

21世紀の現在、日本の文様を忘れていた欧米の人々にとって、型紙のデザインは全く新しい、モダンでユニヴァーサルなものとして受け止められているようです。100年前の芸術運動において劇的な変化を見せたように、型紙の文様はこれから変容していくのかもしれませんが、本章では、海外で生き続ける、型紙に由来するデザインの例を紹介します。



(左)カーペット プリントズ Katagami コレクション
2007年(2008/9制作) プリントズ・カーペット社
プリントズ・カーペット
(上)型紙 芭蕉 プリントズ・カーペット社アーカイブ



コロマン・モーザー テキスタイル
(神託の花) 1901年(21C.製作)
バックハウゼン・インテリア・テキスタイル社
© Backhausen Interior Textiles GmbH - Archiv
Backhausen Vienna



バーリー ティーサービスセット ブルー・キャリコ
1968年(2011年製作) 個人蔵



本展WEBサイト

<http://katagami.exhn.jp>

本展の概要や出品作品のご紹介の他、日本が世界に誇る伝統工芸・型紙のできるまで、型紙が欧米の芸術に与えた影響など、KATAGAMI Style展を楽しむための情報が満載です。

日本経済新聞社文化事業部が運営するTwitterやFacebookとも連携し、本展の最新情報を随時発信します。

スマートフォンやパソコン用の壁紙に使える型紙画像もプレゼント中です(毎月1回更新予定)。



本展オリジナルグッズ、関連商品

染めや印刷の技法が多種多様に発展した現代において、実際に「型紙」を使用して作られるものは、いったいどのくらいあるのでしょうか？

展覧会の出口にあたるミュージアムショップでは、その「型紙」の伝統を現在も大切に受け継ぎ、製作された商品をご紹介します。すべての行程を手作業によって作られるそれらは、大量生産のものとはまったく異なる美しさ・繊細さを持っています。同時に、素晴らしい技の数々も感じられる事でしょう。

その他にも、「KATAGAMI Style」展ならではの展覧会オリジナルグッズ、関連書籍などを、多数展開いたします。

